

宗谷南農協通信

No. 011





宗谷南農業協同組合
代表理事組長



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族揃って気持ち新たに輝かしい新年を迎えられたこととご推察致します。

昨年中は、農協事業運営に多大なご支援、ご協力を頂き感謝申し上げますとともに、各関係団体、企業、町内外の多くの皆様にも事業をご利用頂いたことに厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスが発生して3年目を迎えました。昨年はオリンピックを境に、ワクチン接種が進み日本全体に収束の兆しが見えてきたように思いましたが、新たな変異株「オミクロン株」が南アフリカから急速に広がりを見せ、この変異株は非常に感染力が強いようです。今後も感染拡大防止に向け、注意しながら行動、経済活動をしていかなければならないと思っています。3回目のワクチン接種についても約8ヵ月程経った方から始まっているようですので重症化しない為にも接種し、お互い安心、安全な日常生活を送れるよう祈っております。

このコロナ禍の影響により組合員との対話も十分なされていないことにより、感染対策を行っていた中で、11月に組合員懇談会を開催させて頂き、令和4年度の営農計画作成の基本方針、上半期決算状況、事業年次別概況等を説明させて頂きました。経済活動の停滞から消費の冷え込み、ホテル、会食、イベント、観光とあらゆる面に影響が出ております。牛乳の処理不能問題、乳製品の過剰在庫問題などについても現状を皆様にお伝えしたところですが、年末年始の生乳廃棄については、全道・全国で回避でき酪農、乳業関係者一丸の対応により無事に乗り切ることができましたが、3月の学校給食牛乳が再び休止されることでまだまだ予断を許さない状況で

す。

このような生乳の需要と供給が不安定の中、政府自民党は、令和4年度加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の単価について共に据置で決定し合わせて10.85円/kgとなりました。また総交付対象数量についても345万トンで据置の結果となりました。

当組合の出荷乳量は、令和3年（クミカン等年度）5万8262トン前年比▲987トン、98.3%となりましたが、4戸の搾乳中止もある中で戸々の増産に対する意欲は顕著に表れております。子会社の生乳生産部門であるファームAYN1についても5千トンを出荷しており常にこの数量を維持する計画をたてて営農しております。今後も生産者戸数は減少が続くと思われませんが、新規就農も視野に入れながら規模拡大による乳量の増量、現在乳量の維持に積極的な支援を行う所存でございますので、乳牛の入替などは営農部へ相談して下さい。

昨今のクミカン等については、かつてない乳代単価の高値安定と個体販売価格等の高値により組合員の安定した生活が送られており、ここに至りては、これまで過去に無いほど高値で推移していた個体販売の価格が低落してきており、また飼料費、燃料費等あらゆる経営の支出に関する物の高騰もある中で令和3年度のクミカン等の精算額は、前年より厳しい状況となっております。更に、令和4年度の営農計画書の作成については、費用価格の高騰と個体販売価格の低落により厳しい組合員も若干おられますが、ほぼ計画書の作成は完了しております。

このような厳しい酪農情勢となつていますが、5、6年前当時の個体販売価格に戻った状態ですので、当時は振り返り経費節減を図り経営を行って頂きたいと思っております。

組合員の皆様には常に所得の向上のため、生乳の生産増産が基本であり、良質粗飼料の確保のための土地基盤整備、乳用牛の健康維持のための、飼養管理の徹底が重要な課題と思っております。また将来の強固な安定経営を目指すためにも規模拡大による牛舎新築、増築、育成舎等の施設投資に取組んで頂きたいと思っております。

公共育成牧場につきましては、事業費4億円強を投資した計画も乾草舎1棟の完成を残し、ほぼ事業が完了したことで、今までは飽和状態で受け入れ制限を行っていましたが、現在は解消されておりますのでこの育成牧場の建設趣旨である労働力軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画に基づいた生乳生産の増産を目的とした施設でありますので、組合員皆様の趣旨ご理解の上、利用頂きますようお願い申し上げます。

当組合の令和3年事業年度末まで残り2ヶ月を切りましたが、年度末収支見込につきましては、昨年並みの収益が見込まれる見通しですが、信用事業の収益に直轄する奨励金の逡減により厳しい状況が今後予想され、かつ前段にも記述しました酪農経済についても厳しさが増して参りますので、組合運営も次年度以降厳しい状況を迎える事と推察しております。

また、懸案事項とされていきましたメカニックサービスについては、組合員皆様のご理解を頂き令和2年度末を以って営業を終了し、新しく「農・自部品課」を設置し試行錯誤しながら1年が経とうとしています。ですが実績確保には苦慮しております。

昨年は、第30回のJ A北海道大会が開催され、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」と言う将来ビジョンが決議されました。コロナ禍やデジタル化への対応、SDGsへの貢献、信用、共済事業を始めとしたJ A経営を取り巻く事業環境への対応などJ A環境が急激に変化してはいますが、協同組合運動の原点である「対話」を通じて組合員・役員が一丸となって取組み、安定経営を目指すことが重要と考えます。

最後となりますが、昨年、一昨年とコロナ禍において組合主催行事の開催が中止を余儀なくされてきましたが、今年は収束に向かう事を切に願い中止となつていた各種催し物の再開が出来る事と令和4年度の事業計画の更なる飛躍をめざし、役職員で努力して参ります。

まだ暫らくは、冬期間が続きますが病氣、ケガ、事故に十分注意頂きみんなでコロナを乗り越える気持ちを高め全組合員が常に前進する事を改めて誓って頂きたく思っておりますとともに、この1年も皆さまにとって満足できる年となることを心からお祈り申し上げます、新年の挨拶と致します。

宗谷南農業協同組合

代表理事 組合長 向井地 信之

理事・総務委員長 下山 勲

理事・業務委員長 小野寺 俊一

理事・総務副委員長 木村 浩

理事・業務副委員長 吉田 明彦

理事 小林 政夫

理事 山崎 幸夫

理事 兼 兼 参 事 松本 巧

理事 兼 金融 共 済 部 長 清野 盛

代 表 監 事 平田 勝一郎

監 事 米内 潤二

監 事 福井 金吾

他 職員一同



年頭の挨拶



新年あけましておめでとうございます。組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることと存じ上げます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに對しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ順調に推移したものの、7月～8月にかけての長期間の猛暑や少雨による干ばつ、また、9月に発生した雹や大雨により、一部の地域や作物によつては、生育が大変、心配されたものの、おおむね平年作を確保することができました。

しかしながら、一昨年から引き続き、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食の需要減少等の影響により、各作物の消費に大きな影響が出ています。

今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が国内にも影響があり、農作業の人材確保にも大きな課題となっておりますので、北海道、全国連とも連携し、JAグループ北海道としてしっかりとその対応を図ってまいります。

昨年は第30回のJA北海道大会を開催し、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」という将来ビジョンが決議されました。

コロナ禍やデジタル化への対応、SDGsへの貢献、信用・共済事業をはじめとしたJA経営を取り巻く事業環境への対応など、北海道農業、JAグループ北海道を取り巻く環境が急激に変化しており、このような環境に適應していくには、改

めて、協同組合運動の原点である「対話」を通じて、実践方策を設定し、実践と改善をくり返すことで、変化の波をJA運営に取り込んでいくことが必要であり、組合員・役職員が一丸となってしっかりと取り組んでいくことが重要となります。

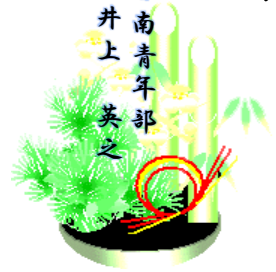
結びになりますが、本年は壬寅年です。十干の「壬」は陽気を下に宿すという意味を持っており、生命の誕生を宿す意味を表します。一方、十二支の「寅」にも壬と同様で、草花が伸びようとする状態を表しています。この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、新型コロナウイルスの1日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



新年の挨拶



J A 宗谷南青年部
部長 井上 英之



新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。旧年中は部員並びに組合員様ご家族様、また宗谷南農協始め各関係機関の皆様方には日頃の青年部活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年を振り返りますと、自然災害においては7月に静岡県熱海市等、8月には西日本での集中豪雨による災害があり、毎年のように甚大な被害がある状況となり、いつ災害が発生してもおかしくない状況の為、常に災害が起きてもいいよう危機感を持って行動することが必須であると感じています。

昨年の牧草収穫は、1番草収穫時期の好天により収穫は上々の出来となりましたが、2番草収穫時期では、高温少雨が続き、牧草の生育不良により、粗飼料不足となりました。来年度の収穫にも影響が出る見込みとなり対

策が必要と感じております。

国内の酪農情勢につきましては、生乳の出荷量が前年比でプラスに転じている中、コロナ禍で生乳の消費量が落ち込み回復していないことから加工品の在庫が増え、生乳の廃棄の危機となっております。さらには燃料や肥料、飼料など農業資材の価格高騰も重なり、生産現場では大変な厳しさが続いております。

青年部の活動としては、相次ぐイベントの中止や、牛乳配布、紙芝居等も感染拡大の観点から厳しく、12月に行われた全道大会は今年もオンライン開催となり新型コロナウイルスの影響がまだ残っていた1年でありましたが、来年度は感染対策をしたうえで乳製品の消費拡大や食育などの活動を行いたいと考えております。

最後になりますが、旧年中はご迷惑や至らない部分が多々ございましたが、本年も青年部の更なる発展を目指し、部員一同邁進して参りますので今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

宗谷南農協青年部

部長	井上 英之
副部長	高橋 慶大
副部長	山崎 知紀
理事	山崎 紀幸
理事	榑原 孟
監事	佐藤 良介
監事	藤原 孟
監事	後藤 亮介



新年の挨拶



JA 宗谷南女性部
部長 戸澤 宏美



新年あけましておめでとうございます。新年にあたり謹んで新年のご挨拶申し上げます。

皆様におかれましてはご家族で輝かしい新年を迎えました事を心よりお喜び申し上げます。

また日頃より女性部の活動に對しまして、宗谷南農業協同組合を始め、各関係機関の皆様にはご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

2020年からの世界を揺がせてきた新型コロナウイルスは、2年近くたった今も終息せず、人々の健康・生活・社会・経済に大きな影響を与え続けています。幸いワクチン接種が進み、経済活動の回復に期待されています。

そのような中、北海道の緊急事態宣言が解除されたのを機に私たち女性部は、11月に総会で部員の皆さんから提出されたアンケートをもとに座談会を開催しました。感染防止対策をしっかり行い、限られた時間の中でしたが、日頃の子牛の管理方法や乳房炎の悩みなどを相談し、

久しぶりに人とのつながりを感じる有意義な時間を過ごす事が出来ました。

しかしオミクロン株等の変異株の発生により、いつ元のような活動の正常化になるかわかりませんが、出来ることを見つけ活動していきたいと思えます。

最後になりましたが、本年もJAを始め関係機関の皆様には女性部に対しより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、部員の皆様、組合員の皆様にはお体を大切にお過ごし下さることをご祈念申し上げます新年の挨拶と致します。



宗谷南農業協同女性部

部長 戸澤 宏美

副部長 井 幸子

副部長 松 重 松 ゆき

理事 菊 池 静子

理事 石 川 春子

理事 大 塚 真央

監事 中 野 明美

監事 菅 原 環

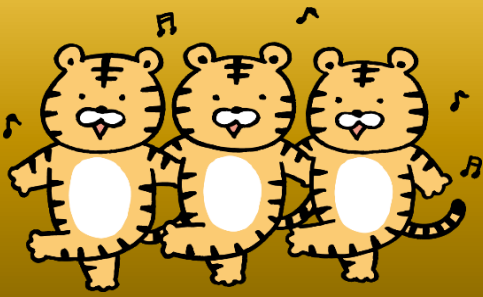




他職員一同

監	代	理	理	理	理	理	副	組
	表						組	合
事	監	事	事	事	事	事	合	長
安	事	澤	井	高	玉	中	山	小
井	井	田	上	橋	村	野	崎	林
一	康	和	賢	博	勇		知	政
晃	有	人	一	則	司	隆	紀	夫

宗谷南
酪農利用ヘルパー組合



監	代	理	理	理	理	副	組
	表					組	合
事	監	事	事	事	事	合	長
今	高	榊	井	松	堤	関	藤
	橋	原	上	田		口	山
賢	慶		英		寿	真	祐
二	大	孟	之	司	浩	也	介

宗谷南
乳牛検定組合



監	監	副	副	会
		会	会	
事	事	長	長	長
山	政	真	桜	向
岸	木	壁	庭	井
也	大	哲	明	地
須	治	也	彦	信
彦				之

宗谷南
乳質改善協議会

昨年中は組合員皆様のひとかならぬご理解、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図り、コントラ部門、育成牧場部門共に、組合員皆様の一助となるよう努力して参ります。また搾乳部門では、第一次産業の衰退を防ぐ為、乳量の確保や将来枝幸町へ就農する担い手の受入先としての役割を果たして参ります。

何卒、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜りますようお願い申し上げます。皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。



枝幸郡枝幸町幸町8121番地3
株式会社 アグリサポート 枝幸
代表取締役 向井地 信之
専務取締役 安部 正昭
常務取締役 若山 栄

